

コモ・スクエア

中電 市内初 C₀₂フリー電力

矢作川で発電 再エネ導入

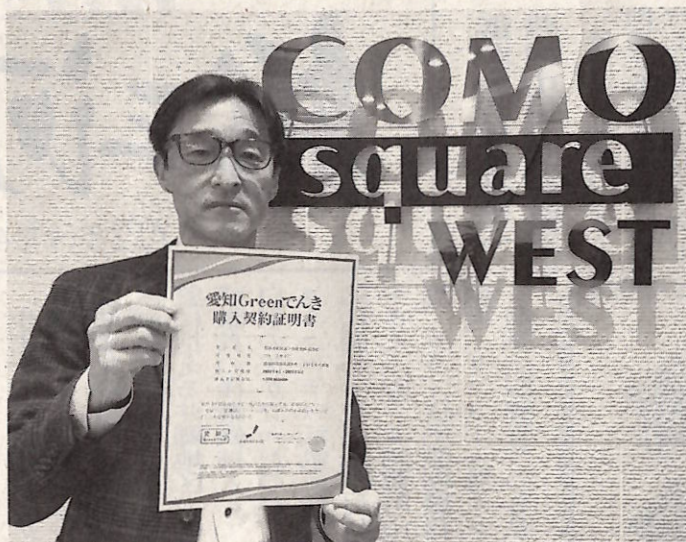
世界規模で脱炭素社会実現への取り組みが活発化する中、豊田市駅前の複合商業施設「コモ・スクエア」で今月、県内産の二酸化炭素(CO₂)フリー電気「愛知Greenでんき」を市内で初めて導入した。コモを管理運営する市駅前通り南開発(蟹昌弘社長)執行役員中村礼二さん(56)は「脱炭素社会移行に向け、環境問題は喫緊の課題。導入によって高騰し続ける光熱費コストがさらに年間数百万円もの負担が増えるがテナントには転嫁せず弊社が負担する」と話す。

【高瀬千穂】

脱炭素社会へ挑戦 ビルに付加価値

中部電力グループの販 区が県内21カ所の水力
売事業会社「中部電力ミ 発電所で作られる再生可
ライズ」(名古屋市東 能エネルギー由来の環境

価値を活用し、主に県内
の法人向けに先月から供
給を始めた。導入企業は
通常の電気料金に県内産
電力の環境価値に相当す
る対価を上乗せした料金
を支払う。料金の一部は
再エネ電源の開発や改修
・保守に活用することで
再エネの普及拡大と地産
地消を通じた地域内経済
循環を目指す。「昨今の
電力市場価格の高騰で新
電力の撤退や契約停止が
相次ぐ中、安心安全の中
電の取り組みに賛同し、
導入を決めた」(南開



購入契約証明書を手にしてPRする中村さん
|| 豊田・喜多町の「コモ・スクエア」で

豊田市は2019年にCO₂排出量を50年までに実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を中部地方で初めて宣言するなど他の自治体と比べ、環境意識が高い。南開発は駅前を代表する市の再開発ビルとして市の考えと合致すると判断した。コモでは年間100万キロワット時間を購入しており、スギが1年間で吸収するCO₂換算量400トの削減を見込む。

オフィステナントには積極的に環境施策に取り組むトヨタ自動車と取引する企業が数多く入居しており、「Greenでんき」を採用することは、環境意識の高い企業にと

ってもコモに入居する付加価値が期待される。いち早く環境に配慮することでビルの価値を上げ、他のビルとの差別化を図るのがねらいだ。

中村さんは「市域を流れる一級河川矢作川水系



で主に発電している点も導入の決め手の一つ。地産地消の意味でも地域に効果的な貢献ができる。もっと多くの人にカーボンニュートラルに向けた取り組みを知ってもらい、環境意識を高めてもらいたい」と呼びかける。